

上伊那の探鳥地ガイド～補足編～

本編で紹介した11の探鳥地において、ひょっとしたら出会えるかもしれない野鳥たちを紹介します。併せて、これらの探鳥地以外でお薦めの上伊那探鳥地の情報も掲載します。

1 ひょっとしたら出会えるかもしれない野鳥たち

① しだれ栗森林公園

○イスカ→

主に冬鳥だが、少数が繁殖しているようである。左右互い違いのくちばしで、マツ等の種子をついばんで食べる。



撮影:戸谷省吾



撮影:戸谷省吾

○ミヤマホオジロ←

冬鳥。眉斑とのどが黄色い。興奮すると冠羽が立つ。



撮影:戸谷省吾

○フクロウ→

日本各地で繁殖している。「ホッホゴロスケホッホ」と低音で鳴く。ネズミを食べ、農耕地の守り神とも言われる。

② 横川溪谷

○オオルリ→

夏鳥。オスの「ピールリー」という美しいさえずりが、春の溪谷に響く。



撮影: 戸谷省吾



撮影: 戸谷省吾

○キセキレイ←

全国で繁殖する黄色いセキレイ。平地から山地まで溪流等の近くに生息する。「チッチチッ」と鳴きながら大きな波形をえがいて飛ぶ。

○ツグミ→

冬鳥。秋から冬には田畑や山地で単独、春先になると群れをつくって行動することが多い。



撮影: 戸谷省吾

③ 萱野高原

○ウグイス→

藪の中にいることが多く、「ホーホケキョ」と声はしても、姿を見ることは少ない。



撮影：戸谷省吾



撮影：戸谷省吾

○マヒワ←

冬鳥。植物の種子をよく食べる。群れを作る性質が強い。



撮影：戸谷省吾

○サンショウクイ→

「ヒリヒリンヒリヒリン」と繰り返しさえずる。ききなしでは、「山椒を喰ってぴりりと辛い」と伝わっている。

④ 大芝高原

○カワセミ→

留鳥。大芝湖で魚を狙う姿を、特に冬場は見かけることがある。



○カルガモ↑

留鳥。メスオス同色。「グエーグエッグエ」と聞こえる大きな声で鳴く。



○シジュウカラ↑

留鳥。ツツピン ツツピン」と鳴いて、いち早く春を告げる。市街地でも普通に見られる。

○アカゲラ→

留鳥。後頭部が赤色のオス、赤くないのがメス。頭上
が赤いのは幼鳥。



⑤ 羽広自然遊歩道



○アカゲラ(右)・
コムクドリ(左)←
コムクドリは夏鳥で、
平地から山地の明る
く開けた林、人里近く
に生息する。樹洞や
キツツキ類の古巣に
営巣する。



○アオジ↑

漂鳥。山地で繁殖し、冬には積
雪のない地域で生活する。高く
ゆっくりと調子よくさえずる。



○ホオジロ↑

留鳥。オスの顔は
白と黒の模様。木の
頂などでさえずり続
ける。平地から山地
の草地、農耕地、牧
場や林縁などに生
息する。

⑥ 鹿嶺高原

○イスカ→
冬鳥。①の頁参照。



○ルリビタキ↑

漂鳥。冬は主に低い山地の林に移る。繁殖期には針葉樹林帯で「キョロ キョロ キョロリ」と澄んだ声でさえずる。



○ヤマドリ↑

留鳥。オスの尾は90cmになる個体もある。翼を激しくはばたいてドドドドッ・・・と羽音をたてて、さえずりのかわりにする。日本特産種。

○ホシガラス↑

しわがれ声で、「ガァーガァー」と鳴く。ハイマツの実を貯食する。亜高山帯・針葉樹林で繁殖する。岳鴉(だけがらす)」とも呼ばれる。



○ハシブトガラス↑

留鳥。住宅地から山地までどこでも見られる。頭脳が優れている。

⑦ 伊那峡

○オシドリ→

漂鳥。天竜川では希だが、冬期にわずか観察できることがある。



○ミコアイサ↑

冬鳥。ミコはオスが巫女の白装束のようなことに由来。湖沼や河川に生息する。



○カワアイサ↑

冬鳥。小群で行動する姿を見かける。「カルル、カルル」と鳴く。



○ヤマガラ←

留鳥。広葉樹林を好む。「ツツピーン ツツピーン」と、日本産カラ類の中では最もゆったりとさえずる。

⑧ 駒ヶ根高原

○アオゲラ→

留鳥。アリ類を好む。大木に自分で巣穴を掘る。「ピョーピョーピョーピョー」と大きな声がさえずる。



○ゴジュウカラ↑

留鳥。落葉広葉樹林等に生息する。木の幹を下を向いて下りることができる。「フィフィ」「フィーフィー」「ピピピピィ」など大きな声で鳴く。



○キビタキ↑

夏鳥。オスは水仙のような黄色の配色が鮮やかで、明るく大きな声でさえずる。落葉広葉樹林等に生息する。

⑨ 千人塚公園

○ジョウビタキ→

冬鳥。長野県中部の高原地帯では繁殖例もある。ジョウは「尉」で銀髪、ヒタキは「火焚」で、火打石をたたく音に似た音を出すことが和名の由来。



撮影：戸谷省吾



撮影：戸谷省吾

○アトリ←

冬鳥。飛びながら「キョツ キョツ キョツ キョツ」と鳴く。森林や農耕地で、非常に大きな群れが見られることもある。

○カシラダカ→

冬鳥。緊張すると冠羽を立てるので、「頭高(カシラダカ)」と名付けられた。地鳴きは「チツ」あるいは「ティツ」と聞こえる高い音を出す。農耕地、河原、林縁などに生息する。



撮影：戸谷省吾

⑩ 小渋ダム

○イソヒヨドリ→

留鳥。オスの青藍色が美しい。全国で繁殖している。名前のように海岸の崖地に生息しているのが普通だが、人工的な建物にも生息する。



○ヤマガラ←

留鳥。⑦の頁参照。

○カヤクグリ→

漂鳥。日本特産種。亜高山の針葉樹林やハイマツ帯で繁殖する。冬には標高の低い山地などでも見られる。「チュリチュリチュリリリヒリヒリ」などと早口に澄んだ声でさえずる。



⑪ 天竜川

○イカルチドリ→

夏鳥(留鳥)。河川の中流域から上流域で多く見られる。雛は孵化後まもなく巣から離れ、親の後を追って歩き出す。親は巣に外敵が近づくと擬傷をする。



撮影:戸谷省吾



撮影:戸谷省吾

○コウノトリ↑

旅鳥。日本で繁殖していたものは、1970年代に絶滅。兵庫県豊岡市で人工繁殖させた個体等が希に飛来する。



撮影:戸谷省吾

○オオバン↑

留鳥。黒い体に白い額が目立つ。「キュイツ」と鳴く、近年増加の傾向にある。



撮影:戸谷省吾

○アオアシシギ←

旅鳥。「アオ」は緑色。くちばしが長めで、緑色がかった足が長く背が高い。春と秋に旅鳥として渡来し、干潟、湿地、水田でえさをとる。

2 その他の探鳥地

① 荒神山公園(辰野町)

○アオバズク→

夏鳥。大木の樹洞などに営巣する。辰野中学校前の大ケヤキに繁殖したこともある。



○カワセミ→

留鳥。たつの海で魚を狙う姿を観察できることもある。



○コブハクチョウ↑

たつの海の個体が天竜川に姿を現すこともある。本来は日本に分布していない外来種。

○カモ類↑

カルガモやマガモなど通年で何種類かのカモ類を観察できる。写真は冬鳥のオナガガモ。



○カイツブリ←

留鳥。たつの海では繁殖記録がいくつかある。潜水して獲物を捕らえる。水上で生活することが多く、歩行する姿はあまり見られない。

② 春日城趾公園(伊那市)



○サギ類↑

アオサギ(写真後方), ダイサギ(写真手前)をはじめ, コサギ, ゴイサギ, アマサギなど何種類かのサギ類の繁殖が確認されている。



○オオタカ↑

小鳥たちが急に飛び去った時など, 上空を見るとオオタカが旋回していることがある。



○チョウゲンボウ↑

留鳥。周囲のビルなどを利用して繁殖する。停空飛翔して獲物を狙う。



○コゲラ↑

留鳥。「ギーギー」と鳴きながら幹を移動し餌を探す。キツキ類では日本最小。

③ 大草公園(中川村)



○メジロ↑

留鳥。サクラの蜜が好物。「チーチー」と鳴きながら群れで移動していく。



○ヒヨドリ↑

留鳥。花の蜜も好物。「ピーヨピーヨ」と鳴きながら、波状飛翔していく。



○モズ↑

留鳥。鳴き真似(百舌), 速贄(はやにえ), 高鳴きなどの生態は, 人間にもお馴染み。



○エナガ↑

留鳥。尾羽(柄)が長い。「チーチー」などと鳴きながら, 群れで移動していく。



○アカハラ←

夏鳥。昆虫等を探しながら, 地面を移動していく。「キヨロンキヨロンチー」等と鳴く。